

第14回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成29年7月19日（水）

2 場所 新見市役所3階 第5委員会室

3 出席状況 出席6名

部会長	森田 寿	欠席	副部会長	水地 秀壽	出席
委員	森岡 繁信	出席	委員	今田 一成	出席
委員	三上 雄二	出席	委員	多賀 紀征	出席
委員	逸見 孝明	出席	委員	田原 裕之	欠席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 傍聴者

なし

6 議事内容

1 開会

- ・本日のテーマは、「農林水産業におけるブランド力の向上について」として案内していたが、部会長から「教育・文化」をテーマに意見交換をしていただきたいとのことで、急遽、テーマを変更しての会議となる。
- ・「農林水産業におけるブランド力の向上」のまとめについては、別途、調整する機会を設けることとなる。

2 あいさつ

○副部会長

3 協議

○「教育・文化」について、市民目線で日頃感じている問題点等を洗い出すこととした。

- ・「塩から子育て事業」は、多くの小中学生が参加し、山での体験ができるとともに、地域の人と交流や情報交換ができるなどいい取組だと思ふ。
- ・新見公立大学や岡山大学から森林ボランティアの研修を受け入れているが、高校生を対象としたものがないのが残念である。実際に山に入ってもらって木の種類を知ることだけでも重要である。
- ・子供の体験学習が不足しているということから「塩から子育て事業」が始まった。しかし、一部の子しか参加できないので、（教育長も言っていたが）各学校単位でできるように展開していければいいと思う。
- ・子供がおとなしいという思いがある。学校でもいろいろなことに取り組もうとするが、安全第一で考えると、どうしても活動が制限され、

結果「しない方がいい」となることがある。

- 全国的に学校現場は、教育内容が多岐にわたるなど過重負担の現状があり、本来割くべき教育に時間が使えないという状況もある。
- 学力テストと生活習慣アンケートを同時にやっているが、傾向として、規則正しい生活をしている子のほうが学力が伸びる場合が多い。

- 体験活動は大事だが、（自治体が募集して実施する）子供対象のキャンプが旅行業法に抵触するとして、相次いで中止になったと聞く。
- 県知事は学力向上というが、下がったという報道があり残念であった。
- 教員を取り巻く環境は大変厳しく、ゆとりが必要である。また「ゆとり世代」と揶揄されるが子供のせいじゃない。国が一環した方針を示さないのが問題である。

- 教員個々の負担が多すぎる。
- 学校教育だけでなく、社会教育（新見の偉人など）も大事である。
- 新砥小学校ではソフトボールをする子供が少なくチームが組めないのので、本郷と合流してやっていて、ある意味いい交流になっている。
- 祖父母が家にいれば、いろいろ教えてあげたり、話を聴いてあげる機会があるが、核家族ではそうはいかない。
- 放課後児童クラブの利用料金が高く、保護者の負担が大きいのではないかな。

- 教育はすぐに効果が現れないが大事なものである。素直で根気強いが競争が少ない。指示待ち。人に揉まれていない。
- 小中高校間や、各学校間での教員の交流が必要ではないか。
- （高校で言えば）普通科は人生で一番勉強しないといけないからどうしても詰め込み式になる。専門科は卒業後の就職を目的にしている、人生の先輩の話をお聴くことや、人間教育（市民の話でもOK）、他人を思いやる体験的な学習など、先生以外の人からも話を聴くような機会が大事である。1学期に1、2日程度あれば、教員も余裕ができる。

- 尊属殺人のようなことがあるが、虐待の連鎖もあるのではないかとと思う。
- 教員については、勤務実態からしてゆとりが必要ではないか。子供については外へ出て体を動かすことが大事で、地域全体でフォローすることなどがポイントとして挙げられたと思う。